

## この町で開業した理由

人と人がつながっている温かい町



御田町 中居 孝仁

学生時代からオートバイが好きでいろいろと乗り継いで、二〇〇一年に念願だったハーレーダビットソンを手に入れたのがきっかけで、革細工を始めました。

最初は自分の財布やバックに始まり、バイクのシートなどを作って欲しいと頼まれ作っているうちに、そのまた友達や友達からも頼まれ、そのまた友達との友達の友達からと、依頼はどんどん増えていきました。仕事をしながら、革細工は趣味で、頼まれたら作るという感じでしたが、自分の手掛けた作品を喜んでもらえることが快感になり、より良いものを作りたいと思うようになり、独学で革のことを



丹精込めた革細工の作品

勉強しました。

車山高原スキー場のスノーボードスクールで冬場だけお世話になっていたので、長野県が好きで、二〇〇四年に茅野市に引っ越して来ました。長野に來てからも革細工は続け、いつか革のお店を持ちたいと思うようになり、店物件を探したりしましたが、なかなか思うようなものもなく、また商売

などしたこともなく、なかなか一歩を踏み出すことができていません。

二〇〇六年にお舟祭りに行かないかと諏訪の友人に誘われ、初めて下諏訪に來ました。それまでは通過したことしかなかったのですが、どんな町かも分からず、当然その時は下諏訪での開業なんて思ってもいませんでした。

春宮から秋宮に向かっている途中、国道を通らず中央通りを通ったところ、突然の夕立があったので、何かの縁だったのかもかもしれません。お隣の洋裁店で雨宿りさせてもらい、いろいろ話をしているうちに、下諏訪町で若い開業者を誘致していることを知りました。すでに開業している新潟県出身のオーナーさんからも話を聞いたところ、「下諏訪の人は温かい。ぜひ下諏訪で開業すれば。」と肩を押してもらいました。何度か足を運び、御田町の「匠プロジェクト」「おかみさんの会」の方たちと話しているうちに、どんどん下諏訪町の人の温かさが居心地よ



よりよいものを作りたい

く好きになってきました。

その年の十二月二十四日に仮オープンし、翌年四月に本格オープンしてから四年が経ちました。下諏訪に來て、いろいろな方と出会いふれあうことができ、本当に温かい町だと思えます。今ではこの町で生活することが楽しく、人と人が繋がりと助け合って支え合って生きていくと感じています。そんな下諏訪町だからこそ、本当にこの町で開業してよかった、ずっとこの町で暮らしていきたいと思っています。

## 私の生涯学習

詩吟を通じて

### 一人でも多くの人に伝え自分も精進を...

東弥生町 松澤 アツ子



「こんにちは、それでは基本発声練習から始めます。あいうえおあお、かきく...」

姿勢を直し大きな口を開けて、自宅近くの公会所での詩吟教室の始まりです。

振り返れば、お隣の奥様に「詩吟をやりませんか？大きな声を出して健康に良いですよ。」と誘われ、「見学に伺います。」と出掛けるところ、次の教室の予定と教本をいただきました。漢文の読み方に戸惑っているうちに一吟出来るようになり、先輩は皆さんやさしく、居心地のよさに三十三年が過ぎました。孫が二歳になった誕生日に「二

歳になつたけれど詩吟やろうよ」と誘ったら、「うん、いいよ」の返事。じゃあ今日から始めよう。「おじいちゃんがあぶのたねをまきました」幼児言葉でも吟調はなかなか！

その孫も今は小学校三年生、五歳の妹も始めて、豆吟者も次々と増え、高校生から幼児まで賑やかな教室になりました。

昨年は会の創立八十周年記念大会に、構成吟「御柱祭」をとり上げ、伐採から山出し、里曳きを木遣り、吟、剣舞、詩舞、踊り、スライドで構成しました。子どもたちは里曳きを担当し、木遣りと花笠踊りの練習をしました。孫たちは父親の長持ちで覚えた花笠踊りを高校生や中学生に教え、里曳き祭を表現して盛り上げてくれました。高校生

と中学生が幼児と同じ目線で戯れ、遊び、吟じながら仲良くなり、教室が終わると座布団や机の片付けをし、同じおやつを分け合って食べる姿は、吟を通じて自然に身についた微笑ましい情景でした。

大人の初心者講座も五ヵ月ほど開きました。三十歳から七十歳までの方が十五人ほど参加され漢詩、和歌、俳句を楽しみながら吟じ合いました。参加者からは「難しいと思ったが、参加したら楽しくて、もう少し若い頃に始めたかった。」という声も聞かれました。

これからは、今まで私が教えていただいた詩吟を、一人でも多くの人にお伝えし、また子どもたちには一つでも多くの名詩に接する機会を作つてあげ、私も精進していきたいと思えます。



## 川田 久美子

陰曆三月と言えば春、草木がいよいよ生い茂る月として「弥生」と呼ばれています。

庭先に目をやれば、チューリップやヒヤシンスなどの花が咲き始め、多くの植物がこの時期から葉を伸ばし、栄養を蓄えてから繁殖を始めます。

また虫たちも目を覚まして地上へと這いだしてきます。このように生物の活動が活発になる春は、何故か心がうきうきしてきてしまいます。

しかし、その一方では春は別れの季節でもあります。日本では年度の変わりの時期として、卒業式や送別会が行われ、出会いと別れの時期でもあります。友達との悲しい別れもあります。

やはり春は、新しい明るい未来を予感させてくれる、そんな季節だと思えます。

皆さんも外へ出て、春を探してみてはいかがでしょうか。

(浅井)